

最長寿命：日本はいかに長くトップであり続けるか

フランス・メレ， ジャック・ヴァラン

日本は1984年以降，女性の平均寿命に関する世界のトップであった。しかしながら，最近では伸長は緩やかとなり，日本の優位性はだんだんと小さいものへとなりつつある。本研究は，近い将来，どの国が新しいトップとなりうるかを検討する。全ての候補国（すなわち，以前トップだった国，二番手の国，新たな国）の中で，韓国が最もトップに近い国であると考えられる。韓国における最近の平均寿命の伸長速度は非常に速く，とりわけ高齢死亡率の低下は目覚ましいものであった。仮に日本と韓国がこれまでと同じペースで伸長を続けたとしたら，韓国は2022年までに日本を追い越すだろうと考えられる。

過去15年以上にわたり，全ての年齢と全ての死因について，韓国の死亡率低下は日本よりも速かった。この低下は，特に心疾患と脳血管疾患において最も顕著である。心疾患死亡率は1980年代初頭から減少してきた。他の循環器疾患のコントロールが進んだのはより最近であるが，この効果も大きいものであった。さらに，特に1980～1990年代に改善が芳しくなかったいくつかの死因のトレンドについても，21世紀初頭から一転して改善に向かった。これらの死因の中には，喫煙に関連したガン，糖尿病，外因による死亡が含まれている。

しかしながら，もし韓国が日本に追いつき，平均寿命が高い国々の中でのトップとなっても，最長平均寿命の伸長ペースがこれまでと変わらないということの意味するものではない。韓国では女性の平均寿命の伸長は最近緩やかとなっている。この国の新しいトップとしての登場は，最長平均寿命を表す線分の変化点に対応することになるかもしれない。第1の線分は19世紀の間の飢饉と感染症への勝利による伸長を示し，第2の線分はその後のパスツール革命によって始まり感染症に対抗する効率的なツール（例えば予防接種や抗生剤など）の発明により加速された伸長を示す。そして第3の線分は20世紀の最後の数十年間における心血管革命による伸長に対応している。一方，将来の伸長速度は，精神障害，高齢期の呼吸器・循環器系疾患，一般的な虚弱など，高齢者における典型的な死因のコントロールの成功により多く依存するだろう。

（訳：石井 太）